

第1回（仮称）平和資料館開設準備懇話会について

1 概要

（仮称）平和資料館については、コンセプトや展示内容の方向性等をまとめた基本計画の策定や基本計画を基に施設や展示製作の設計等、ハード事業に関する取り組みを進め、今年度は建設地の造成や樹木整備を行う。

今後、開館に向けては、館の自主事業や運営体制等、ソフト事業に関する検討が必要であるため、学識経験者や他の公立の資料館の関係者等の専門的な見地から意見を聴取する「（仮称）平和資料館開設準備懇話会」を設置している。

本年8月に第1回の会議を開催しており、内容は次のとおりである。

第1回の懇話会（8月27日）では、

- ・基本計画及び実施設計の報告
- ・コンセプトに基づく展示内容の整理
- ・自主事業（展示以外）

について、事務局からの説明を行い、委員からの意見を聴取した。

2 開催期間 令和元年8月～令和3年3月（4回予定）

3 今後の取り組み

議会からのご提案などを踏まえつつ、懇話会での議論を深め、開館後の運営計画をまとめる。

《資料》

- | | |
|----------------------------|---------|
| ・懇話会構成員名簿 | 別紙1のとおり |
| ・懇話会の進め方（意見聴取事項）について | 別紙2のとおり |
| ・議題2：コンセプト等に基づく展示内容の整理について | 別紙3のとおり |
| ・委員の主な意見について（議題2） | 別紙4のとおり |
| ・議題3：自主事業（展示以外）について | 別紙5のとおり |
| ・委員の主な意見について（議題3） | 別紙6のとおり |

(仮称) 平和資料館開設準備懇話会構成員名簿

氏 名	所 属 等	備 考
大久保 一哉	長崎原爆資料館館長	
後藤 みな子	一般社団法人 北九州文学協会理事長	
近藤 倫明	北九州市立大学名誉教授	座 長
佐方 はるみ	九州女子大学人間科学部特任教授	
戸高 一成	呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長	
凧 恵美	松永文庫 室長代理	
羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事	副座長
吉水 請子	極東ファディ株式会社 取締役	

(敬称略・50音順)

(仮称)平和資料館開設準備懇話会の進め方8月 27日
(火)**第1回 懇話会****(議題)**

- (仮称)平和資料館基本計画・実施設計
- コンセプトに基づく展示内容
 - ・プロローグ(導入展示)
- 館の自主事業(展示以外)
についての意見聴取



1月 予定

第2回 懇話会**(議題)**

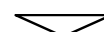
- コンセプトに基づく展示内容
 - ・戦前の北九州
 - ・戦争と市民の暮らし
 - ・空襲の記憶
- 館の管理・運営
についての意見聴取



4月 以降

第3回 懇話会**(議題)**

- コンセプトに基づく展示内容の整理
 - ・運命の昭和20年8月8日・9日
 - ・戦後の復興
 - ・企画展示
- 館の管理・運営
についての意見聴取

**第4回 懇話会****(議題)**

- コンセプトに基づく展示内容の整理
 - ・エピローグ展示
- についての意見聴取
- 意見のまとめ

■導入展示(タイトル)

小倉陸軍造兵廠の位置や規模を表す大型グラフィックの展示。
来館者が改めて資料館設置の意義を実感し、展示鑑賞への期待感を高める。

導入展示(プロローグ)

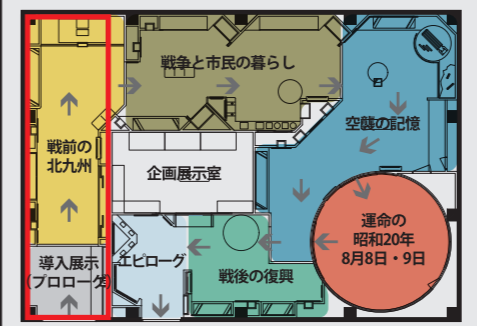
当館の趣旨を象徴的な写真と証言で伝える。また北九州市を構成する各都市の歴史的経緯をたどり展示室へと誘導する。

戦前の北九州

日本を代表する工業都市として北九州地域が発展する中で、陸軍の師団や関連施設が置かれたことを紹介する。

〈発展する北九州〉

交通の要所や工業都市等、様々な顔を持った都市として発展し、活気がある“まち”の様子や市民の暮らしを紹介する。



小倉陸軍造兵廠米軍調査資料写真

大型グラフィック

米国立公文書館から入手した写真。長崎に投下された原子爆弾の投下第一目標が小倉陸軍造兵廠であったことを物語る写真を、プロローグとして展示する。

イメージ例

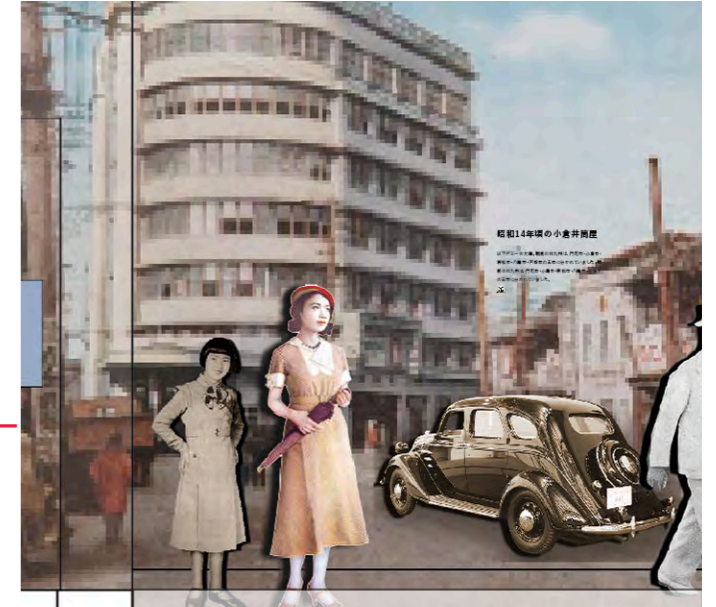


発展する北九州を再現

立体グラフィック

昭和14年頃の井筒屋百貨店前など、当時の街並みを背景に、発展する北九州を象徴する情景を立体的に再現する。

イメージ例



※立体グラフィックにする素材は仮のイメージです



画像検索装置

ハンズオンテーブル / 北九州のまち、今と昔を比べてみよう!

ごあいさつ、展示趣旨、北九州市の位置紹介、年表

名称	(仮称) 平和資料館展示設計業務委託	チェック	+	日付		設計		備考		図面名称	概要版	縮尺	図面番号
	実施設計										常設展示室		03

第 1 回「(仮称) 平和資料館開設準備懇話会」での委員の主な意見

(概要)

■議題 2 : コンセプト等に基づく展示内容の整理について (プロローグ展示)

- このように、多世代の来館者が、なぜここに平和資料館があるのか、その場で理解でき、来館者を資料館に導入できるような仕掛けは必要である。
- 小学生は、原爆投下命令書や小倉陸軍造兵廠といわれても、それが何か分からない。米軍がなぜここに原子爆弾を落とそうと思ったのか。誰が見ても分かるようにするためには、もう少し分かりやすい何かが必要だと思う。
- 展示している米軍の原爆投下命令書は、資料の下に全体の説明があるよりは、全く同じフォーマットで翻訳されたものが上下に並んでいて、その下に説明があると、より理解が深まるといった資料的な親切さがあるとい良い。
- 全体のストーリーの展開の中で、「運命の8月8日、9日」が物語のピークに当たるとすると、原爆投下命令書のところで、長崎と広島で起こったことの説明は、ある程度伝わるように組み込んでおかないと、8月8日、9日のできごとの意味を、正しく分かりやすく伝えることに問題が起きてくるのではないかと思う。
- プロローグは照明を暗くすることで、違う空間に入ったということが分かるようにすると、展示の時代に入り込める。

議題（3）

（仮称）平和資料館の自主事業（展示以外）

懇話会での活発な議論のため、次のとおり、論点を示している。

論点1. 子どもから大人まで学びを深めるための取り組み

論点2. 近隣の施設や学校等との連携による来客者の確保のための取り組み

論点3. 活動や魅力等を発信するための取り組み

【参考：基本計画での方向性】

（基本方針）

■北九州の戦争の記憶に触れて、ふるさとを愛する気持ちを“はぐくむ”ため

【学習機能】

- ・市民の体験や寄贈された資料等、収集資料を検証する。
- ・他都市の平和資料館等との連携を進め、収蔵資料を調査・研究する。
- ・学校と連携し、平和学習の場としての活用を図るとともに、市民の生涯学習を支援する。
- ・関連図書や配置や語り部による戦争体験の講演会等、来館者の学びを深める。
- ・展示鑑賞後、来館者が心の変化を確認できる仕組みを検討する。

■人々の交流の輪や資料館の活動、魅力を“ひろげる”ため

【交流・発信機能】

- ・戦争を知らない若い世代と戦争を知る世代の交流に向けた取り組み等を進め、資料館を拠点に様々な人々の交流や近隣施設への回遊を促進する。
- ・ホームページの開設や収集資料が閲覧できるデータベースを運用する等、資料館の活動や資料の価値等を内外に発信する。
- ・職員が出張し資料解説を行う出前授業等、アウトリーチを実施する。

（運営計画・集客）

- ・近隣施設等との連携やネットワークの構築や観光客等の取り込みを図る取り組みを検討。

第 1 回「(仮称) 平和資料館開設準備懇話会」での委員の主な意見

(概要)

■議題 3 : 自主事業 (展示以外) について

(論点 1 : 子どもから大人まで学びを深めるための取り組み)

- 北九州市の資料館とSDGs を関連付けて連携させるような取り組みで毎年、催し物があれば、独自性が生かせるのではないか。7月の平和学習の月間だけでも北九州市独自の取り組みをしたら良いと思う。
- 戦争の映画を多目的室で上映する、あるいは、戦争文学や地元に関するものを読み聞かせする、食のイベントをやるなど、色んなことをこの場所でやることに意義があるという考えは、一つのあり方としてある。
- 色んな文化、そういうものをこの場所でやるという姿勢。平和の資料館だから、それに関連したものを共有する自主的な事業もやる必要がある。その時に重要なのは、独自性を保ちながら、来館者がそれぞれの立場で学ぶという事だと思う。

(論点 2 : 近隣の施設や学校等との連携による来客者の確保のための取り組み)

- 集客を狙うのであれば、特別展示はとても大事になる。子どもにアプローチしやすいもの、例えば、戦争の時代の背景を持った漫画雑誌や広告のチラシなどを取り上げると、もっと間口を広げて色々な方に見ていただく機会をつくり、そこから本来伝えたいものを見ていただけることにつながるのではないか。
- 資料館が建つこの場所は、文化施設が集約されており、歩いて散策できる。近隣施設が連携し合うような形が、理想的にできる場所である。
- 多くの方は1回しか、来るチャンスはない。そのチャンスを逃さず、興味を掻き立てるものを与える必要がある。

(論点 3 : 活動や魅力等を発信するための取り組み)

- この地に資料館がある意味をどういった形で提示していくか。教育に関連した小学校児童や中高校生だけでなく、幅広い世代に門戸を開くという形でのアイデアが必要である。
- 長期的には市外、県外から来てもらうとなると、資料館と関係ない異業種と連携して売り込むという大局的なコンセプトを入れておかないといけないと思う。
- 多くの人に見てもらうためには、マスコミにも継続して取り上げてもらう必要がある。類似の施設と連携して、どんな企画展をやっているかなど情報交換を行い企画を考える必要がある。

■その他の意見

(展示の考え方)

- 展示全体が、反戦など、それだけに利用されないようなものが必要ではないか。北九州市の平和資料館となると、戦前からの工業都市であり、ものづくりということで、戦争に関わった歴史もある。
- 戦後、製造業のまちが、平和的なものをつくることに代わり、市民の努力によって、今日があるなど、その辺を強調する必要があるのではないか。
- 若い人達が当時は率先して軍の学校に進学したり、命を落としたりしたが、例えば、当時の進学状況など、そういうことも含めて展示をした方が良いのでは。

(平和資料館の必要性等)

- これからの戦争の伝え方というのは、戦争を知らない人間が、自分も知らない戦争を、さらに知らない世代に伝えなければいけない。伝えなければならぬ戦争の歴史をどうやって伝えていくか。本当に難しい時代に入っていると思う。
- この施設を通して、若い人たち、子どもたちが、自分の町に起こったことを実際に自分の言葉で語るができる都市になるというのは、本当に素晴らしい事ではないかと思っている。